

## 令和2年度病害虫発生予察情報 特殊報 第4号

令和3年3月4日  
広島県西部農業技術指導所

### 1 病害虫名 クマモトネグサレセンチュウ

*Pratylenchus kumamotoensis* Mizukubo et al.

### 2 発生作物名 キク（品種名：神馬，精興光玉，秀そのか，晃花の富士）

### 3 特殊報の内容

広島県における初発生

### 4 発生経過

(1) 発生確認年月日 令和2年10月15日

(2) 発生地域 江田島市

(3) 確認の経緯

広島県江田島市内で、キクを作付けたほ場（施設10a）において、令和2年10月上旬頃から生育途中の株の葉の萎れ、退色、萎凋が散見され始め、ハウス内に急激に広がった（図1，2）。症状が進行した株は萎凋して枯死した。なお、周辺ほ場での被害発生は確認できなかった。

広島県立総合技術研究所農業技術センターが、被害株のあった畝より土壌を採取し、ベルマン法により線虫類を分離したところ、生土20g当たり203.7頭のネグサレセンチュウ類が分離された。12月中旬、同施設より被害株及び土壌を採取し、根、茎及び土壌からベルマン法により線虫類を分離後、神戸植物防疫所に同定依頼を行った。

同定診断の結果、分離した線虫類は、本県未発生のクマモトネグサレセンチュウ（*Pratylenchus kumamotoensis* Mizukubo et al.）と判明した。

(4) 他県での発生状況等

国内では、宮崎県、熊本県、沖縄県など九州各地で発生が確認されている。また、山口県でもこの線虫による被害が確認されている。

### 5 本害虫の特性

本線虫は、キクに寄生し根の褐変化を起こす。葉は下位葉より枯れ上がり生育不良を引き起こす。

キク以外の植物では、ヨモギから検出される。キクにおける増殖性は高いが、ほ場に自生するその他の植物では増殖性が低いとされている。

本種は、雌雄が出現し、両性生殖を行う。国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の調査では発育零点は11℃。

本種の形態的特徴は、唇部に2又は3体環を持ち、受精囊の輪郭は楕円又は長円形であり、後部子宮枝が長い。また、食道線葉が背方や側方から腸に重なる個体の出現が多いことから、他の種と区別されている。

## 6 防除対策

キクのネグサレセンチュウ類で登録のある薬剤（ダズメット粉粒剤，商品名：バスアミド微粒剤，ガスタード微粒剤等）を利用し，苗定植前に土壌消毒を行う。また，使用した機械や装置についてもまん延防止のため，使用後の洗浄及び消毒を徹底する。

## 7 その他

広島県内の他地域の園地では，被害の発生及び報告を確認していない。



図1 被害株の状態



図2 ハウス内での発生状況

## 8 参考文献

牧草と園芸 第64巻第3号（2016年）

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先

西部農業技術指導所（植物防疫チーム）（〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話082-420-9662）

広島県立総合技術研究所 農業技術センター生産環境研究部

（〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話082-429-0521）

農林水産局農業技術課

（〒730-8511 広島市中区基町 10-52 電話082-513-3559）

○病害虫発生予察情報は，広島県ホームページで閲覧できます。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>